

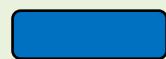



講義の紹介

山村農業実践センターで予定している講義について紹介します。

年間20コマ（1コマ=半日）

	作物の栽培に関する講義		就農に関する講義
	栽培以外の農業に関する講義		その他

4月	野菜栽培の基礎	播種、定植、畝立て等栽培の基礎について講義します
	三色ピーマン	三色ピーマンの栽培について講義します
	就農支援制度	高知県および大豊町の支援制度について講義します
	ショウガ	ショウガの栽培について講義します
5月	ミニトマト	ミニトマトの栽培、大豊町の取組について講義します
	病虫害防除	嶺北地域の主要病虫害および防除について講義します
	土壌肥料 1	高知大学による専門講義です
	就農計画	講義で全体像を把握し、実際の作成は個別対応で支援します
6月	植物生理 1	高知大学による専門講義です
	土壌肥料 2	高知大学による専門講義です
	栽培管理	主に「高温対策」に重点を置いた講義です
7月	植物生理 2	高知大学による専門講義です
	就農の実際	県内の就農事例を紹介する、農業会議による講義です
8月	鳥獣害対策	中山間農業では重要な課題となっています
	経営簿記	講義は1コマですが、必要に応じ個別指導も対応できます
9月	栽培管理	主に「保温対策」と冬作への切り替えについて講義します
	地域協働学	高知大学と大豊町の取組をもとに講義を行います
	冬作 1	ハウレンソウ、スナップエンドウの栽培について講義します
10月	冬作 2	葉ゴボウ他、冬作有望品目について講義します
	成果発表	就農計画や研修成果をもとにした研修生の発表会です 堂々と自信を持って発表できる1年を過ごしてください

研修内容と就農のイメージ

研修内容

専用圃場による栽培管理全般、機械実習、講義、
就農計画作成、園芸部会への参加などを予定
条件付きですが、有機農業の研修も対応します

基本姿勢

農業（研修含む）経験者を対象とした実践研修
研修生の自主性を高めながら、基礎を徹底して指
導します
大豊町で実績のある品目を栽培し、就農および営
農を円滑にします

就農計画の作成

研修終了・就農については、就農後の営農ビジョン
を確立するためにも、就農計画の作成を必須要件とし
ます。作成については、講義（6月）および個別対応
で支援します

販路について

山村農業実践センターの販路は、就農後に活用でき
ます

就農当初の生活について

提案書や当パンフレットでも、「一年程度の生活費
として300万円程度必要」と明記しています。青年
就農給付金は年2回の給付であり、毎月ではありません。
農業収入が見込まれるまでの期間は支出のみとな
り、蓄えがないと生活できなくなります

就農後のイメージ

地域の中核農家
農業で大豊町を盛り上げていく

評価表をもとに研修の進捗状況を判断します

50項目を越える評価項目を基に研修状況を評価します。評価表は研修生も自己
評価としてつけてもらいます。定期的に評価表を基に意見交換を行い（一年の流れ
参照）、一人一人にあった内容で研修を充実していきます。
研修開始3ヶ月後までに、研修を進めるか中止するかを判断します。中止の場合、
大豊町での就農も支援しませんが、大豊定住の強い思いがある場合、移住者として
対応します。
有機農業の研修は、農家研修の受入先が無い場合に限り、山村農業実践センター
で行います。

共同研修で栽培を予定している品目

ミニトマト：品種「アイコ」ラグビー型で糖度が高く、栽培が容易
三色ピーマン：嶺北地域を代表する品物
「赤・オレンジ・黄色」の三色を同時栽培する
ショウガ：露地品目で、比較的他の品目と組合せ易い
ハウレンソウ・スナップエンドウ：冬作として、トマトやピーマンの合間に栽培
その他：随時有望作物を積極的に取り入れていきます
4月研修開始と、10月研修開始の2通りコースがあります。

就農までの流れ

6月の評価では就農希望の確認も行い、7月頃から随時農地や家を紹介します。
また、青年就農給付金「経営開始型」の受給には認定就農者になることが前提で
あり、就農計画の作成が必須となります。6月の講義後、就農計画の作成は普及所
の協力を得て個別に支援していきます。作成は10月をメドとします。
「一年の流れ」も参考にしてください。

販路は今後拡大していきます

山村農業実践センターでは「ゆとりファーム」および「JA土佐れいほく」への
出荷を計画しており、これらは就農後の販路にも活用できます。今後新しい販路が
でき次第、随時紹介していきます。

経営が安定するまでは大変

ハウス建設は10aあたり1,000万円程度の費用がかかります（県や町の事業が
活用できます）。また、初期投資として農業機械・農機具類・農地の賃借料・肥料
農薬・種苗費・諸材料費と項目は多岐にわたります。
栽培を開始しても収入が得られるまでには、出荷、販売を経てはじめて収入が得
られます。収穫までに時間がかかりますし、販売先によっては数ヶ月後の決済にな
ることもあります。家族構成・機械装備（新規、中古、リース）、経営規模等によ
って支出内容は変わりますが、最低1年程度は生活できる資金が必要です。

大豊町の牽引役に

過疎化の進む大豊町で、若い就農者が増えることは大きな希望です。その就農者
が農業で生計を立て、後に続く新しい仲間の先導役となり、農業で暮らせる人が増
えていく。大豊町・就農者ともに心強い現象です。
また、大豊町では有機栽培農家を中心に「トマト産地おとよ」のブランド化を
検討しており、仲間を募っています。山村農業実践センターでも、年々増えていく
就農者を中心にグループ化を計画しています。就農後の活動が安心して行えると確
信しています。